



第81号

歴史と暮らしの赤れんが博物館



広島市郷土資料館

HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS

広島競馬場—かつて広島市にも競馬場が存在した—



広島市市民局文化スポーツ部文化振興課提供

ゴール直前の場面でしょうか。砂塵を巻き上げ地響きをたてながら駆けてくる馬の様子が伝わってきます。柵に登り身を乗り出している観客の後ろ姿を見ると、多くの人々の喚声がいまにも聞こえてきそうです。背景には金輪島も写っており、昭和初期に宇品で行われていた競馬の様子を今日に伝える貴重な写真です。

競馬が行われていた「中国グラウンド」は、広島市宇品町(現広島市南区宇品東)にあり、昭和6年(1931)11月に完成しました。11月27日には開場式が行われ、翌28日から広島県畜産組合連合会主催の秋季地方競馬が開催されています。以後春・秋3日間ずつ昭和8年(1933)の春季まで競馬が開催されましたが、錦華人絹株式会社の工場誘致にともない完成からわずか2年で廃止されました。野球場も併設された広大な敷地でしたが、現在は自動車会社の工場となっており、その風景からは当時の様子をうかがい知ることはできません。

(牛黄著 豊)



ひろしま郷土資料館だより

平成22年度後半（10月～3月）に実施した事業

開館25周年記念企画展「広島競馬場」 2010.11/13～2011.1/16



写真・実物資料あわせて約120点を展示しました。



関連イベント
福山競馬の調教師・騎手による「競馬トークショー」を開催しました。

かつて広島県内各地で祭の余興や地域の娯楽の一つとして、いわゆる「草競馬」が行われていたといえます。馬場の形態や規模はさまざまですが、走っている馬たちの多くは農耕馬だったため、スタート地点になかなか集合できなかつたり、コーナーを曲がりきれずに騎手を振り落としてしまうなどのハプニングもたびたび起こりました。馬主は優勝旗を手にするため、騎手も賞金を手にするために必死なのですが、そういった人と馬とが織りなすドラマに人々は喚声をあげていました。馬が荷車を引いて歩く風景がごく普通だった時代のひとこまで。戦前の広島市でも軍馬だけでなく、船着き場の近くには多くの馬がいたといえます。戦後、交通手段の発達にともなって馬の姿が消えてゆき、いつしか草競馬も見られなくなってしまいました。

今回の展示では戦前の競馬の様子を記録した貴重な映像を紹介することができました。大正15年(1926)の「深川競馬場」と昭和2年(1927)の「観音グラウンド」での競馬の様子で、個人の方が9.5ミリフィルムで撮影されたものです。映像からは鎧を長くした現在とは異なる騎手の騎乗スタイルやカーブ

のきついコーナーの様子などがうかがえますが、なによりも驚いたのは満員のスタンドや投票所の風景です。観客の服装も和装と洋装が入り混じって当時の世相を感じさせますが、なにより当時の人々の競馬に対する熱気が伝わってくる映像でした。

現在、広島県内においては福山競馬場で競馬が開催され、白熱したレースが繰り広げられています。そこには長年にわたって培われてきた広島馬文化が脈々と受け継がれています。競走馬を管理している調教師、日々担当馬の世話をしている厩務員、調教やレースで馬に乗る騎手、馬に蹄鉄を打つ装蹄師、競馬場を管理している職員の方々等、このたび多くの方に取材させていただく機会を得ました。共通して感じたのは「競馬」に対する熱き思いと「馬」に対する深い愛情でした。競馬場で馬が走る姿に人々の大きな喚声が響き渡る光景は今も昔も変わりません。日本で最も人と馬との距離が近い競馬場といわれる福山競馬場は、今の時代において身近に人と馬とのつながりを感じることができる貴重な場所といえます。

(牛黄著 豊)

企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」 2010.9/7～2011.3/6



教室「ごんのはり絵作り」
新聞紙のカラーページを材料にした、ちぎり絵風のはり絵です。

平成13年に始まった企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」は当館秋の恒例としてすっかり定着しました。

小学校4年生の国語の教科書に新美南吉の童話「ごんぎつね」が初めて取り上げられたのは50余年前です。30年前にはすべての教科書に掲載されるようになって現在に至りました。平成23年度の教科書改訂でもすべての教科書で採用される予定だそうです。そういう訳で、小学生の子どもはもちろん両親、祖父母の3世代で「ごんぎつね」のお話を共有することができます。こ

の展示は家族でご覧になる方も多いので、物語の場面を思い起こしながら話も弾んだのではないのでしょうか。祖父母の世代であれば、展示している農具など実際に使用した方もおられるでしょう。「ごんぎつね」の舞台は、内容から「おとの様」がいた江戸時代と考えられますが、そこに見られるくらしの道具は、実はほんの数十年前にはまだ実際に使用されていたものも多いのです。当館で展示している道具もそのようなものがたくさんあります。

実際の農具や生活用具には、名称や

第81号

形状に地域差があります。「ごんぎつね」のふるさは愛知県半田市の岩滑ですから、当然広島のものとは異なる道具があります。半田市の新美南吉記念館の平成22年度特別展「ごんぎつねモノ図鑑」とそれにもとづき作られたデジタル教材「ごんぎつねものしり図鑑」で「ごん」の世界に現れるくらしの道具が紹介されていましたが、当館展示のものと比べていただくと共通するもの異なるものがわかり、興味深いと思います。現地ならではの道具も紹介されています。その違いは当館でも10年前の展示開始から意識して、展示しているのは広島で使われていたものだということを展示冒頭の説明で伝えています。

展示の見学は今年度も圧倒的に小学校からの来館者が多く、社会科の「古い道具とむかしのくらし」の学習と国

語科の「ごんぎつね」の学習を併せて社会見学で訪れる4年生が主です。児童たちは事前に学校で下調べをしてこることも多く、説明ももちろんですが実物をしっかり観察したいという意欲が強いので、なるべく間近で興味のあるものを見てもらおうと努めています。火縄銃や兵十のウナギ採りのコーナーはいつも大人気です。

関連事業としては、「ごんのはり絵作り」を新しく行ったほか、フリーアナウンサーの桂幾子さんに展示室で紙芝居を読んでもらった後おはぎ作りをしたり、ひろしま音読の会のみなさんにきつねをテーマにしたおはなしをしていただいたりして好評を得ました。

(前野 やよい)



展示の様子



「きつねたちのおはなし会」

新刊紹介 『広島市民球場の記憶』 2011.3/12

2008年9月28日、最後のプロ野球公式戦を終えた旧広島市民球場はその後、一般利用や各種イベント、オープン戦などに利用されてきましたが、2010年8月末、53年余りの「市民のレクリエーションの場」としての歴史にも幕を下ろし、その役割を名実ともに終えました。11月からは解体工事が始まり、2011年3月現在、文字どおりこの地から姿を消しつつあります。広島戦後復興史の中で、ナイター球場として確固たる存在感をもって登場し、数々の感動の場面を演出することで光彩を放ち続けた市民球場は、いま、ひっそりと私たちの記憶の世界のものになるようとしています。

当館では平成19年に「広島市民球場の50年」、同21年に「広島市民球場の記憶」と題して企画展を実施し、多数のお客様にご来場いただきました。後者の展示開催の際制作した16ページの写真集『広島市民球場の記憶』も完売となりました。今回出版する書籍は、球場の解体が始まり、人々の関心が再び高まっている中で、球場を永く記憶に残していただくことを目的として製

作しました。展示で使用した写真をほぼ網羅したほか、新資料も加え、さらには球場建設が広島の戦後史の中でどのような意義を持つものであったのかを考察する解説、さらに球場解体の様子も加えるなど、大幅に増補し、再編集したものです。収録した写真は、公募で寄せられたものも含め、約400点にもなります。構成は、「第一部 戦後史の中のカーブと広島市民球場」で市民球場が建設されるまでの動きを概観し、「第二部 写真で綴る広島市民球場」で球場完成後のさまざまな場面を写真で振り返り、「第三部 広島市民球場の終焉」で最後のナイター、最終戦の様子、解体工事の状況を紹介するものとなっています。

また、出版と時期をあわせて、広島市公文書館との共催で企画展「市民の夢 旧広島市民球場の誕生」を開催しています(会期3月12日(土)～4月10日(日))。旧市民球場管理事務所から公文書館に移管となった、建設工事にかかわる公文書や物品を中心に公開するものです。

(大室 謙二)



A 5版147ページ、1600円(税込)



旧市民球場正面に掲げられていた文字看板



ひろしま郷土資料館だより

★ 伝統的な物づくりや、昔ながらの遊びを体験する教室。幼児も参加できるものから大人向けのものまで、多彩な事業を行いました。



教室：うどん作り

★ 館外での講座や工作教室での指導などの記録です。また、今年度も3施設合同ボランティアの皆さんには様々な事業で活躍していただきました。



ボランティア研修会：オタフク Wood egg で工場見学とお好み焼教室



水あめは屋台で売り歩く予定でしたが…長蛇の列で動けませんでした。

教室事業

10月9日(土) ごんのまんじゅう作り	1月22日(土) 磯の香り！ノリスき体験
10月10日(日) ごんのはり絵作り	29日(土) //
10月11日(月・祝) 糸紡ぎ体験	2月13日(日) 広島発祥！バウムクーヘン作り
11月19日(金) ロウケツ染め(大人向け)	19日(土) //
11月20日(土) ロウケツ染め	2月25日(金) 広島発祥！バウムクーヘン作り
11月27日(土) みたらし団子作り	(大人向け)
12月11日(土) うどん作り	2月26日(土) 折り染めのひな人形作り
12月18日(土) もちつき体験	27日(日) //
19日(日) //	3月5日(土) わらざうり作り
1月8日(土) まゆ玉うさぎ作り	3月12日(土) あぶりだしアート
9日(日) //	

その他の活動・ボランティア

10月2日(土)	12月13日(月)
第四回砂持加勢まつりで「一銭洋食作り」	広島市立大学で講義「博物館資料論」
10月3日(日)	12月15日(水)
植物公園秋のグリーンフェア2010で	筒瀬小学校で出張授業「八木用水について」
文化財課と「たのしいのぼり人形作り」	12月16日(木)
10月10日(日)	歴史系3施設合同ボランティア研修会
三滝少年自然の家古代キャンプin三滝で	オタフク Wood egg で「工場見学とお好み焼教室」
「弓矢体験」指導	2月19日(土)
10月24日(日)	文化財課で歴史系3施設合同ボランティア
歴史系3施設合同ボランティア研修会	募集説明会
「宇品めぐり」	2月22日(火)
10月30日(土)	2月26日(土)
広島市文化財団ボランティアフェスティバル	歴史系3施設合同ボランティア施設見学
で「一銭洋食作り」、「バウムクーヘン作り」	と「折り染めのひな人形作り」体験
11月19日(金)～11月21日(日)	
12月10日(金)～12月12日(日)	
博物館館務実習(1名)	

駄菓子作り広場 2010.11/3

当館では、施設を無料開放する文化の日に、スペシャルイベントとして「駄菓子作り広場」を開催しています。今年度は、近くに駐車場が確保できたこともあって例年を大きく上回る約6,000人もの方に来場いただく盛況ぶりでした。

館内外に、「綿菓子」「一銭洋食」「ラムネ菓子」等の駄菓子作りや、「藍染め」「かんたん工作」「昔のおもちゃに挑戦」といった体験ブースをいくつも設け、お客さんに自由に参加してもらいます。昔ながらのおやつやおもちゃを自分で作り、食べ、試してみることを通して、五感をフルに使っ

た素朴な面白さに触れることができます。このことは、大人にとっては懐かしく、そして子どもたちにとってはかなり新鮮な刺激となったようです。

ブースの運営には、ボランティアやアルバイトの皆さんにご協力をいただきました。各ブースでは、自然と会話が生まれ笑いが起こります。こうしたコミュニケーションを、参加者もスタッフも大いに楽しんでいる様子でした。終了時間を過ぎてはたくさんのお客さんがおられ、名残惜しささえ感じました。そしてすべての片付けが終わった後には、心地よい疲労感が残っていました。(稲坂 恒宏)

平成22年度を振り返って

季節は廻り、今年度も終わろうとしています。変化が速く多様性が求められる現代、郷土資料館も市民ニーズに合った運営・活動を心掛けてきました。

文学と郷土史の融合を試みた「松本清張展」、他施設とのコラボレーションによりおこなった「おばけの夏休み」、学校教育との連携事業として「ごんぎつねが語る昔の暮らし」、郷土の隠れた歴史を掘り下げた「広島競馬場」など、既製概念にとらわれない企画展を実施しました。このほかバラエティーに富んだ各種教室の開催、現地調査や研究は言うまでもありません。ましてや博物館の使命ともいえる資料の保存においては、古くなった収蔵庫をいかにして活用し、資料を将来にわたり保存するか、試行錯誤を

繰り返しています。

今年は、当館のレンガ建物（宇品陸軍糧秣支廠）が建設されて100年目にあたります。明治末期に建てられたこの缶詰工場は、富国強兵・太平洋戦争・被爆・復興と様々な時代を見てきました。そうして100年、時代は廻り、新たな一歩が踏み出されようとしています。

広島市の南、宇品にある小さな博物館。まだ道半ばではありますが、皆様のご支援、ご協力をいただきながら、存在意義のある館となるよう努力していきたいと思っています。

（館長 沼田 有史）



収蔵庫

平成23年度前半の企画展・イベント

ひろしま いせき ほ こういぶつ み ひろしま

企画展 **広島**の遺跡を掘る～考古遺物から見る広島～

【会期】4月16日(土)～5月29日(日)

広島市内の発掘調査の成果をとおして、広島歩みに迫る！小学校6年生ではじめて古代の日本にふれる子どもたちも必見！

きゅうう じなりくぐりょうまつししょう

企画展 **旧宇品陸軍糧秣支廠100年**

【会期】6月4日(土)～7月18日(祝・月)

広島市郷土資料館たてものの前身・宇品陸軍糧秣支廠が現在の地に置かれ、今年でちょうど100年を迎えます。その様子や歩みを紹介します。

なつやす

夏休みイベント **おばけの夏休み**

【会期】7月30日(土)～8月31日(水)

今も昔も暑い夏はおばけの季節。今年も郷土資料館のおばけ屋敷で楽しもう。アステールプラザでも7月21日(木)～24日(日)に開催。

かた むかし

企画展 **「ごんぎつね」が語る昔の暮らし**

【会期】9月6日(火)～12月25日(日)

童話「ごんぎつね」のストーリーを交えながら、作中に登場する昔の道具や情景を再現・展示して昔の人々の暮らしを紹介します。

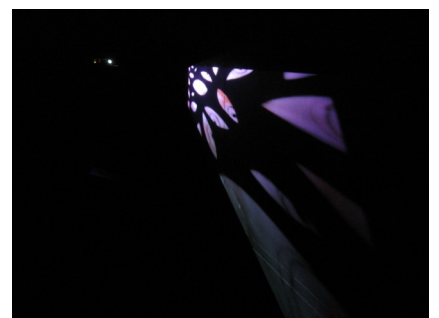
★ 平成23年度も充実の展示や楽しいイベントで皆さんをお迎えいたします。ご期待ください。



広島の遺跡を掘る



100周年記念キャラクター れんガール



おばけの夏休み



ひろしま郷土資料館だより

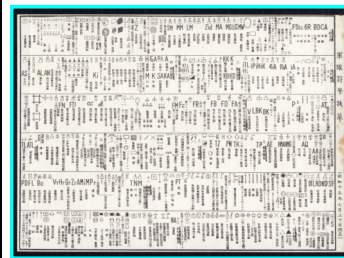
寄贈資料(平成22年10月～平成23年3月受入分)

資料内容	件数	寄贈者(敬称略)
通信紙①	6	高野憲一郎
日本帝国政府紙幣(五拾銭)②	1	濱 竹代
日本銀行兌換銀券(一円)	1	
電気アイロン	3	佐伯 邦子
『第68号 日本婦人』(昭和16年)	1	
決戦下の大衆雑誌『戦線文庫』(昭和18年)	1	
『講談倶楽部』(昭和18年)	1	
国民大衆雑誌『富士』(昭和19年)	1	
最新大日本図(昭和8年大阪朝日新聞附録)	1	
隴海線戦局地図(昭和13年〃附録)	1	
日満露支交通国境大地図(昭和10年大阪毎日新聞附録)	1	
絵葉書「広島城」③	2	
隣保袋と居住証明書	1	
宇品局郵便区市内図	5	
写真「元宇品別世界のソテツ」	5	
広島県総合体錬場竣工記念レリーフ④	1	



①旧陸軍運輸部通称
曉部隊金輪島工場電
気部で使用されてい
たと思われる。
部員はおもに電気配
線修理を行っていた。

表紙裏には司令部や
本部、通信所や軍事
施設を簡略化した軍
隊符号表が付いてお
り、それを参考に情
報を効率よく記入で
きるようになっている。
←



②昭和20年発行。

日本政府が補助的に発
行した政府紙幣で民間
企業にて印刷された。
表が靖国神社、裏が高
千穂峰の図柄となっ
ている。昭和23年廃止。



■新着収蔵資料展■(2/3～3/31)

平成22年度に広島市に寄贈していただいた資料をロビーにて紹介しました。



今年度の大型
寄贈資料は
こちらの昭和
30年代後半の
ペダルオープ
ナー式冷蔵庫



③広島県物産共進会の記念スタンプ押印
付(左上)の絵葉書。
物産共進会は、大正4年4月5日～5月14
日まで物産陳列館(現原爆ドーム)の第
一会場と西練兵場(広島城を含む現中区
基町)の第二会場で開催された。消印が
4月6日であることからオープン初日か
翌日に来場し早速投函された模様。



④現西区観音新町に
所在するCoca-Cola
West野球場(旧県
総合グラウンド)は、
皇紀2600年記念事
業の一環として建設
され、寄贈者ら市内
男女中学校生徒の勤
労奉仕の尽力もあり、
奇しくも太平洋戦争
開戦前日の昭和16
年12月7日に竣工式
を挙げた。レリーフ
はその際の記念品。
武勇の象徴とされた
神武天皇が馬にまた
がり弓を引いている。

ひろしま郷土資料館だより 第81号

【編集・発行】

(財)広島市文化財団 広島市郷土資料館
〒734-0015

広島市南区宇品御幸二丁目6-20

TEL (082) 253-6771 / FAX (082) 253-6772

http://www.hiroins-net.ne.jp/kyodo/

【発行年月日】

平成23年(2011)3月29日



広島市郷土資料館

HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS

§(財)広島市文化財団は4月から(財)広島市未来都市創造財団となります §

(財)広島市文化財団は、平成23年4月1日に(財)広島市ひと・まちネットワーク及び
(財)広島勤労者職業福祉センターと合併し、名称を(財)広島市未来都市創造財団に変更します。